

報道各位

2012.11.15

**【推薦図書】 著書「医者の私が、がんを消した食事法」に
アグリコン型イソフラボンが詳しく紹介される**

～相模原中央病院理事長 中野重徳医師の前立腺がん再発予防のための食事法～

医療法人社団徳寿会 相模原中央病院理事長 中野重徳医師は、10年前に自身が罹った早期の前立腺癌をホルモン療法により克服した後、再発予防対策として、自ら編み出したアグリコン型イソフラボン等を中心に据えた食事法を実行し、現在に至るまでがんが消えた状態を維持している経緯を自身の著書「**医者の私が、がんを消した食事法**」に著した。

(株)中経出版 初版発行：2012-9；ISBN：978-4-8061-4485-4)

外科を専門領域とする同医師が早期の前立腺がんにかかったのは10年前のことであったが、当時も病院の理事長、医師、学会の重鎮として様々な業務を精力的にこなしていたため、尿のコントロールが出来なくなる外科的療法は仕事柄採用できず、ホルモン療法で治療にあたることとなった。

しかしながら、ホルモン療法といえども、それに伴う様々な副作用に悩まされることとなったため、ホルモン療法の代替療法として、前立腺がん細胞のアポトーシス誘導などエビデンスが多数存在するアグリコン型イソフラボンを中心に、さらにビタミンA、ビタミンD、EPA、DHAなどを積極的に摂取することが出来る、魚、野菜中心の食事法を加えることで、治療後の再発を効果的に防ぎ、現在も前立腺がんを見つけることが出来ない状態を保っている*。

同医師が考案・実践したこの食事法は、分子整合栄養医学と呼ばれ、①「がんを抑える」、②「ストレスに負けない心をつくる」、③「免疫力を高める」、④「抗酸化力を高める」を目的とした栄養療法である。

同医師はこの食事法を選択した考え方と、具体的な手法および効果について、専門知識の少ない一般読者にも理解しやすい平易な表現で、同著書に正確かつ克明に記述している。

特に中核となるイソフラボンの摂取についても、代替療法を目的とするならアグリコン型イソフラボン、予防目的であれば大豆そのものの積極利用を薦め、普段の食生活の改善で即時実行できる対策を提言している。

このたびの著書は、患者になった同医師自身の状況と心理が、医師の冷静な目を通して記述されているため、これから治療方法や代替治療を選択しようとしている患者やその家族に、患者側の心理に則った実践的情報を提供するとともに、心理的に強力な支えとなると考えられる。

同書が多くの悩める中高年男性に届き、アグリコン型イソフラボンの優れた吸収性と特性が、前立腺にまつわる問題に広範に福音をもたらされることが期待される。

この著書に関するお問い合わせは、医療法人社団徳寿会 相模原中央病院となります。

(<http://www.tokujukai.or.jp/>)

*「がんが消える」とは、完治するという意味では使用しておらず、腫瘍マーカーが正常範囲内で、がんの姿が見えない状態を保っていることをさす。

